

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0972100457		
法人名	社会福祉法人幸知会		
事業所名	グループホームへブンリー・トータス		
所在地	栃木県河内郡上三川町下神主231-1 (電話) 0285-52-3330		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年6月19日	評価確定日	平成20年7月18日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人(2ユニット計)常勤12人(うち兼務1人), 非常勤5人, 常勤換算13.2人		

(2) 建物概要

建物構造	木造(一部鉄骨造り) 1階建ての1階部分		
------	-------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	・光熱水費—20,000円 ・理美容代、おむつ代—実費 ・日用品費、教養娯楽費—実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	退所時の環境整備に充当しない場合には全額返還	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	栃木厚生連 石橋総合病院、関歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

併設の特別養護老人ホームと敷地続きになっている。手入れの行き届いた庭には花木が多くあり、また近隣では、たけのこや栗が取れるなど季節を感じることでできる環境になっている。訪問日の午後には入居者の発案でジャガイモの収穫をしていた。入居者一人ひとりが「今を輝く」ことを大切にしており、入居者の誕生日には入居者の日頃の思いをかなえるために職員体制に配慮して野球観戦に行ったり、家族に会いに行ったりして入居者に喜ばれている。また、そういった取り組みが職員の活力にもつながっている。運営者も職員のアイデアを実現することに積極的な考え方を持っている。今後更に、地域や家族とのつながりを深めていこうと考えているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は運営推進会議でも報告し、薬品等の保管方法の変更などの改善をしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は主任・副主任で実施し、職員に見てもらった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、入居者家族、民生委員、町役場職員に参加してもらい、運営状況の報告をし、地域との交流について等、意見・助言をもらっている。入居者や入居者家族の意見表出の場にもなっている。今後、災害対策についても相談していく予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者ごとに1か月の様子の写真をまとめ、職員のメッセージを付した「お便り」を作成し、利用料請求時に送付したり、家族の訪問時に報告したりしている。預かり金は出納帳で管理し、定期的に家族に確認してもらっている。4月に変わった職員は、5月に家族も参加してもらったバーベキューで紹介している。重要事項説明書にホーム・町・国保連等の苦情受付窓口を明記し、玄関に意見箱を置いている。運営推進会議の他、バーベキューや七夕などの行事に家族を誘うなど交流を大切にして、意見や不満などを率直に言ってもらえるような関係づくりに努めている。別々の職員から家族への連絡が重複してしまうことがあり、ダブリや漏れがないように工夫をした例がある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	散歩の際に挨拶をしたり、入居者といっしょに地元公民館の清掃に出掛けたりとさり気ない関わりの中で地域との交流を深めていくことに努めている。友人が訪ねてくる入居者もいる。隣接する同法人の特別養護老人ホームにはボランティア等が訪れており、間接的な交流をしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に理事長がつくった「今を輝く」を理念としている。パンフレットには「楽しい暮らし」と明記されている。「今を輝く」と「楽しい暮らし」が補完関係になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「今を輝く」「楽しい暮らし」のホーム理念の他、法人共通の3つの指針を事務室に掲げており、「今を輝く」については玄関にも掲示している。職員は自分の言葉で理念を述べることができる。誕生日の過ごし方など、職員は入居者が一日一日を楽しく過ごせるよう工夫しながら支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の際に挨拶をしたり、入居者といっしょに地元公民館の清掃に出掛けたりとさり気ない関わりの中で地域との交流を深めていくことに努めている。友人が訪ねてくる入居者もいる。隣接する同法人の特別養護老人ホームにはボランティア等が訪れており、間接的な交流をしている。	○	散歩の際に休憩場所として利用している地元公民館の掃除やごみ拾いなど、自然な形で地域に働きかけていきたいと考えている。運営推進会議の場なども活かしながら地域への働きかけを続けていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は運営推進会議でも報告し、薬品等の保管方法の変更などの改善をしている。今回の自己評価は主任・副主任で実施し、職員に見てもらった。	○	今後、自己評価を実施する際に各職員の参加の度合いを高めることで、ホームの強みや課題を共有していく機会として活かしていくことにも期待したい。

グループホームへブリー・トータス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、入居者家族、民生委員、町役場職員に参加してもらい、運営状況の報告をし、地域との交流について等、意見・助言をもらっている。入居者や入居者家族の意見表出の場にもなっている。今後、災害対策についても相談していく予定である。	○	地域の人々との交流を深め、また地域の中のホームの応援団を増やしていくという意味でも、例えば検討テーマによって自治会の方や消防・警察など関係を深めていきたい方たちに参加してもらうなど運営推進会議の場をより活かしていくための取り組みを検討することに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主任や副主任が窓口となって、運営推進会議の場での相談のほか連携に努めている。町の高齢者運動会に参加することを介護保険担当部署に相談し、他部署と調整してもらって運動会（説明会も含めて）に入居者が参加した例がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者ごとに1か月の様子の写真をまとめ、職員のメッセージを付した「お便り」を作成し、利用料請求時に送付したり、家族の訪問時に報告したりしている。預かり金は出納帳で管理し、定期的に家族に確認してもらっている。職員の顔写真を玄関に掲示している。4月に変わった職員は、5月に家族も参加してもらったバーベキューで紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム・町・国保連等の苦情受付窓口を明記し、玄関に意見箱を置いている。運営推進会議の他、バーベキューや七夕などの行事に家族を誘うなど交流を大切にして、意見や不満などを率直に言ってもらえるような関係づくりに努めている。別々の職員から家族への連絡が重複してしまうことがあり、ダブリや漏れがないように工夫をした例がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は極力行わないようにしている。ユニット間を自由に行き来できるようになっており、職員もユニットごとに固定化しないことでホーム全体としての馴染みの関係づくりに努め、離職等があったときでも入居者へのダメージを防げるよう配慮している。年2回の自己評価・上司からの評価、個人面談があり、職員が希望や自分の考えを述べるができる機会を確保している。		

グループホームへブリー・トータス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の取り組みとして知識向上委員会があり、認知症について、ターミナルケアなどの研修を計画的に実施している。法人内他部門との一日交換研修なども実施している。新採職員は、1か月程度、毎日その日良かったことや反省点などを話し合う時間を設けている。外部研修は指名を受けて参加することが多く、職員会議の際に発表したりしている。個人で研修に参加した時などは、連絡ボードを使って情報提供したりして知識の共有にも努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会・県老人福祉施設協議会のグループホーム部会に参加してネットワークづくり、意見交換をしている。また、近隣のグループホームと交流し、去年は他ホームで実施した研修に参加させてもらったりもしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学に来てもらってホームの雰囲気を見てもらい、また試しに日中他入居者と過ごしてもらったりしている。入居者間の接点を見つけて、話をしている中で入居者間の関係づくりに配慮している。入居者にとって楽しいことを考えながら、ホームでの生活に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることに配慮し、調理の場面で入居者に教えてもらうような働きかけをしたりして一緒に家事などを行っている。職員は入居者から慣わしごとや生活の知恵を教えてもらっている。		

グループホームへブンリー・トータス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段、入居者と接する中で希望や意向の把握に努め記録に残すようにしている。センター方式のアセスメントなどにも取り組んでいる。困難な場合には家族の力も借りながら、趣味・特技・職業などの情報を活かすようにして本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の要望を聞き、月1回の定例会で話し合いながら介護計画を作成している。今後、入居者の昔馴染みの方から情報を得たりして入居者の生活を更に充実させるための介護計画づくりにも取り組みたいと考えている。	○	職員は、入居者の誕生日や喜寿・米寿などの祝いごとの際に入居者の日頃の思いを叶えたり、とサプライズ（入居者に最大限の喜びを感じてもらおうこと）を大切にしている。本人に関する情報を充実させていくことで、更に入居者本位の介護計画を充実させていくことにも期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標を3か月、長期目標を6か月とし、3か月に1回のモニタリングを行って計画の見直しをしている。また、定例会での検討のほか、必要に応じてカンファレンスを行って現状に即した介護計画の作成に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。入居者の誕生日や祝いごとなどには入居者一人ひとりの日頃の思いを叶えることを大切にして柔軟な支援に努めている。敷地続きで同法人の特別養護老人ホームがあることから、交流したり、職員間の応援要請がしやすくなっている。		

グループホームへブンリー・トータス


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者と家族の接点づくりということも考慮して定期受診等は基本的に家族に通院をお願いしている。受診ノートを作り、血圧の推移等の情報を医療機関に提供したりして適切な医療が受けられるよう工夫している。緊急時のことを考えて、1回は協力医療機関で受診してもらうよう、家族に勧めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	内部研修でターミナルケアの勉強をしており、また職員としては本人の希望があれば終末期の対応をしていきたいと考えている。ただ、体制の検討も含めて、今は準備段階であると考えている。家族が行事でホームを訪れた際に話をしている。	○	運営者も交えて、今後も継続的に職員間の話し合いをし、また本人や家族の意向を適時確認しながら必要な準備を進めていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉づかいや態度など、入居者に不快感を与えないように注意している。個人記録などは事務室で管理している。毎昼に片方のユニットのキッチン周りに集まって入居者のいる中で職員ミーティングをしているが、入居者のプライバシーやプライドに配慮しながら話をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に決めていない。訪問日の午後も入居者の発案でジャガイモの収穫を行っていた。また、以前は町内のサークル活動に参加している方もいた。特に誕生日には職員と1対1で希望の場所に出掛けるなど、希望にそった過ごし方の支援に努めている。		

グループホームへブンリー・トータス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食は隣接する特別養護老人ホームから届く体制になっているが、朝・昼はホームで調理している。また、月2回は夕食作りの日を設けている。食材の買い物に入居者と一緒に出かけ一緒にメニューを考えている。自家菜園の野菜が食卓に並ぶこともある。職員は入居者と一緒と同じものを食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日14:00～17:00ぐらいの時間で入浴を支援している。仲の良い方同士で入浴する方もいる。入浴順の希望が重なることに配慮して、一番風呂が順番で回ってくるような仕組みも工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、料理、裁縫など、入居者の得意なことやできることに配慮して場面づくりをしている。法人理事長の協力による書道や詩吟などのクラブ活動的な時間も設けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、日帰り旅行、畑仕事など外に出る機会を多くつくっている。また、林を望む広いウッドデッキや広い庭など遠出をしなくとも外気に触れることのできる環境がある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関その他の出入り口にかぎを掛けない。職員は入居者の様子や行動特性などを把握して見守り、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

グループホームへブンリー・トータス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定も含めて避難訓練を行っている。いざというときには隣接の特別養護老人ホームから応援してもらえる体制になっている。応援者がスムーズな避難誘導ができるように各居室の表札には車いすマークなどが貼ってある。今後、地域の方への協力要請をする予定である。	○	運営推進会議でも地域の方々との協力体制について話し合いをする予定である。隣接施設からの応援に加えて、いざという時の協力者を増やしていく意味でも今後の体制づくりに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夕食は隣接施設の献立になっており、朝・昼は入居者と一緒に買い物に行って、その都度メニューを考えており、時々栄養士に確認してもらうようにしている。記録をしながら適切な食事・水分の摂取ができるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の設備や調度などは家庭で使うようなものを使用している。ところどころに花を飾ったりして季節感に配慮し、また新聞や将棋道具などが入居者の手の届くところにさり気なく置いてある。音、光などは適切に配慮され、窓の開け閉めで換気をしており室内に空気のだよみや気になるにおい等はなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだものを持ってきてもらうようにしており、家具や仏壇などを持ち込み、それぞれに特徴ある居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。